

科目7

精神保健医療福祉に関連する制度とサービス

講義6-2

8050世帯に対する多機関連携 まとめ

【事例】 8050世帯①

事例概要

80代の母と50代の息子の二人世帯。父は十数年前に他界し、他に身内はいない。

母は、かかりつけ医療機関(内科)で認知症の診断を受けており、かかりつけ医や地域包括支援センター職員から介護保険サービスの利用をすすめられているが、同居の息子が反対している。息子は10年前頃から無職で自宅にひきこもっているが、母の受診同行や近所のコンビニに買い物に行くことはできる。

【事例】 8050世帯②

あなたは市の保健センターに勤務する保健師です。

地域包括支援センターから相談を受けた市の高齢者福祉の担当者から依頼があり、カンファレンスに出席した。

カンファレンス出席者：地域包括支援センター、市（高齢者福祉・保健センター）

以前できていた掃除や
ゴミ出しもできなくなっている。

母は必要なサービスを受け
ることができていない。



食事は息子がコンビニで毎日
同じ弁当を購入して食べている。

息子はこだわりが強く、コ
ミュニケーションが取りに
くい。精神科受診歴はない
ようだが、精神疾患がある
のかもしれない。

【事例】 8050世帯③

地域包括支援センターと訪問(初回)

自宅内は物が多く、足の踏み場がない状態。食卓に食べかけの弁当が置かれている。母とは、穏やかに話すことができるが、物忘れがあり、直前に話したことも覚えていない。

自室でテレビを見ていた息子に声をかける。

以前は、運送会社で働いていたが、母の介護のために退職した。
母の介護は自分(息子)がするので、サービスは必要ない。
困っていることは特にない。

母の介護を働いていない理由としているが、サービスを使うと、自分の役割がなくなると考えているのだろうか？
幻覚や妄想を疑う言動はない。



【事例】 8050世帯④

その後も母にサービスは導入できず、地域包括支援センターや民生委員と見守りを続けていたが、徘徊で母が警察に保護されることが増える。ある日、母が脱水で倒れていたところ救急搬送され、総合病院の内科に入院となる。入院中に要介護認定の申請をする方針になるが、息子は「勝手に救急搬送された」「医療費もかかるので、入院させたくない」と退院を申し出る。

カンファレンス出席者：地域包括支援センター、市（高齢者福祉・保健センター・福祉事務所）

高齢者虐待（ネグレクト）
で母を保護する。



世帯の収入は母の遺族年金のみ。母が入所すると息子は生活費に困る。預貯金はなさそう。

息子が精神的に不安定になるのでは。息子のフォローが必要。

初めての場所は苦手なようなので、生活保護の申請には同行した方が良さそう。

【事例】 8050世帯⑤

高齢者福祉担当者と訪問

これまで母のために頑張ってきたのに、どこが虐待なのか。
納得できない。直接母と話したい。
滞納している光熱費は、次の母の年金で払うつもりだったのに。
生活保護を申請するなら、死んだ方がマシ。
食欲はない。眠ってもすぐに目が覚める。

これまでお一人でお母さんの介護を頑張って来られたのですね。
生活保護の案内資料をお持ちしたので、わからないことがあれば
聞いてください。申請には同行できます。体調も心配ですし、また
明日来ますね。



【事例】 8050世帯⑥

生活保護申請に同行

生活保護の申請を希望していないが、心配していることを繰り返し伝えて、窓口に行き、申請することの同意を得る。その場で福祉事務所の面接相談員に連絡し、面接の予約を取る。息子の同意を得て、現在の状態について、福祉事務所と共有する。後日、福祉事務所へ生活保護の申請に同行する。

生活保護開始後

ケースワーカーの訪問に同行。生活費や医療費の不安がなくなったことについては「よかった」と話す。母が保護されたことについては依然納得できず、「そのことを思い出すとイライラする」と訴え、精神科の受診をすすめる。自閉スペクトラム症の診断で、主治医から自身の特性について説明を受ける。ゴミ出しの手伝い等苦手な部分はヘルパーを利用する。徐々に保健師の役割は小さくなり、世帯への支援チームによるケア会議で役割分担を確認後、保健師の支援は終結となる。

【事例】 8050世帯⑦

まとめ

①市高齢者福祉・地域包括支援センター
→見守り・リスク評価・虐待対応

【連携のポイント】

- ・メンタルヘルスのアセスメント
- ・息子の困りごとや思いに寄り添う



②福祉事務所
→保護費の支給・定期的な訪問

【連携のポイント】

- ・申請窓口への同行
- ・CWの定期訪問に同行

③精神科クリニック
→診断・治療・特性の理解

【連携のポイント】

- ・困りごとに寄り添う中で受療支援
- ・特性理解のサポート
- ・徐々に終結・バックアップへ

科目7 まとめ

- 事例や会議を通して、多機関、多職種との連携を積み重ね、支援ネットワークを構築することが大切である。
- 支援機関や支援者のための連携でなく、本人のための連携である。
- 本人が大切にしていることを一緒に大切にすることによって、信頼関係の構築が図られ、本人が必要とする支援や資源につながる。
- 今、起きている課題だけに着目せず、メンタルヘルスの課題に影響を与えている状況等、世帯全体を俯瞰的に捉え地域で支える視点が重要である。

ご視聴ありがとうございました。

講義科目(科目1～7)の動画視聴は以上となります。おつかれさまでした。

【動画作成】

厚生労働行政推進調査事業費補助金

「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築を推進する政策研究」分担研究

「自治体における包括的ケアの推進に関する研究」

【作成協力】

全国精神保健福祉相談員会